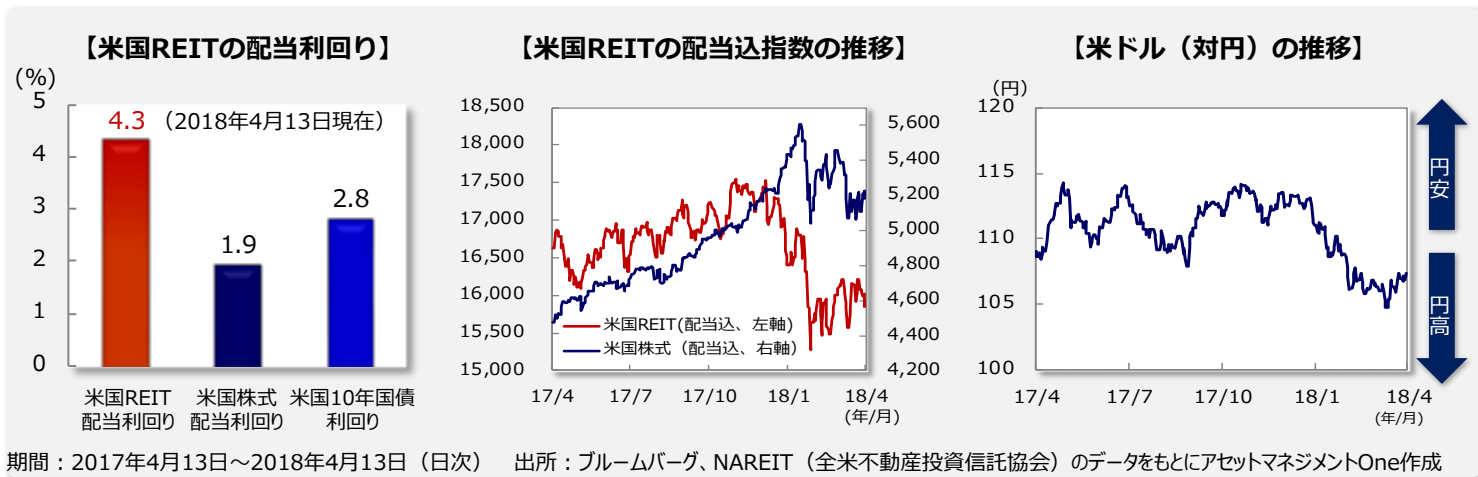


### ■米国のREIT市場、株式市場、為替および配当利回りの推移

| 指数名称                                     | 基準日       | 騰落率   |       |       |       |        |
|--|-----------|-------|-------|-------|-------|--------|
|  | 2018/4/13 | 1週間   | 1ヵ月   | 6ヵ月   | 1年    | 3年     |
| 米国REIT                                   |           |       |       |       |       |        |
| FTSE NAREIT All Equity REITs インデックス(配当込) | 15,937.38 | -0.9% | -1.1% | -7.5% | -4.1% | 9.8%   |
| 米国株式                                     |           |       |       |       |       |        |
| S&P500(配当込)                              | 5,207.57  | 2.0%  | -3.8% | 5.0%  | 16.3% | 35.2%  |
| 為替レート                                    |           |       |       |       |       |        |
| 円/米ドル                                    | 107.35    | 0.4%  | 0.7%  | -4.0% | -1.6% | -10.6% |



※該当日が休業日に当たる場合は、前営業日の終値を使用しています。

※FTSE NAREIT All Equity REITs インデックスは米国REIT市場の動向を表す指数であり、FTSE社および全米不動産投資信託協会が一切の知的財産権を保有しています。

### ■米国REITの市場概況

#### 米国REIT市場の動向

先週の米国REIT市場は下落しました。週初は米中貿易摩擦に対する不透明感が依然として残るなか、同市場は下落して始まりました。その後は、中国の習近平国家主席が外資に国内市場を開放する方針を示したことなどから、米中貿易摩擦に対する懸念が和らぎ米国10年国債利回りは上昇、同市場は売りが優勢となりました。週末にかけては米国によるシリアへの軍事介入の可能性が浮上し、地政学リスクが意識されたものの、昨年に続く二回目であったことなどから市場の反応は限定的となり、米国債は売られたことで同市場も連れ安となり前週末比-0.9%で取引を終えました。

#### 米ドル(対円)の動向

先週の米ドルは小幅に上昇しました。週初は中国が貿易摩擦に対する対応策として人民元の切り下げを検討しているとの報道が流れるなど、通商問題を巡る不透明感がくすぶり米ドルは下落して始まりました。その後は、習近平国家主席による中国経済の開放に関する表明で米中貿易摩擦の懸念が後退した一方、シリア情勢をめぐり緊張感の高まりなどから米ドル・円は107円を挟み一進一退の展開となりました。週末にかけて、米ホワイトハウスがシリア情勢に対する最終的な決定は未だでないとの考えを示したことなどから米ドルは買いが優勢となり、前週末比+0.4%で取引を終えました。

### ■トピック

4月11日、SL Green Realty (SLG/オフィス) は、不動産投資家のIvanhoe Cambridgeと共同で所有するマンハッタン1745 Broadwayにあるオフィスコンドミニアムを、Invesco Real Estateの機関投資家顧客へ6.33億米ドル(1フィート当たり939米ドル)で売却すると発表しました。同物件は面積67.4万平方フィートを有するミッドタウンの中心部に立地するAクラス(最優良)オフィスで、現在の入居率は100%となっています。あわせて、SLG社はニューヨーク郊外の2つのオフィス115-117 Stevens Avenue in ValhallaとReckson Executive Park in Rye Brookをおよそ6,700万米ドルで別の投資家に売却すると発表しました。これらの案件によるSLG社の売却益は1.9億米ドルに上るとみられ、同社の自社株買いプログラムなどに充てられる予定です。

## 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

### 【投資信託に係るリスクと費用】

#### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

#### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

##### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 : 上限3.78% (税込)

換金時手数料 : 換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額 : 上限0.5%

##### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬） : 上限 年率2.6824% (税込)

※ 上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料 : 上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

### 【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
  1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
  2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
  3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。